

## 令和4年度 第1回沖縄県がん診療連携協議会 小児・AYA部会 議事要旨

日 時：令和4年6月2日（木） 15：30～17：05

場 所：WEB会議

構 成 員：16名

出 席 者：13名

浜田聡(琉大病院小児科)、銘苺桂子(琉大病院産婦人科)、森島聡子(琉大病院第二内科)、當銘保則(琉大病院整形外科)、伊良波史朗(南部医療センター・こども医療センター)、大城一郁(南部医療センター・こども医療センター血液・腫瘍内科)、新屋敷誠(森川特別支援学校)、城間敏生(沖縄県教育庁保健体育課)、崎間恒哉(代理 赤嶺加奈江 沖縄県教育庁県立学校教育課)、當山美奈子(琉大病院看護部)、外間早紀子(沖縄県保健医療部健康長寿課)、金城敦子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、増田昌人(琉大病院がんセンター)

欠 席：3名

比嘉猛(南部医療センター・こども医療センター小児科)、佐久川夏実(南部医療センター・こども医療センターCLS)、朝倉義崇(中部病院血液・腫瘍内科)、

陪 席 者：1名

石川千穂(がんセンター事務)

**【報告事項】**

1. 令和3年度 第4回小児・AYA部会 議事要旨(2月24日)  
増田委員より、資料1に基づき説明があり、承認された。
2. 小児・AYA部会 委員一覧  
増田委員より、資料2に基づき、説明があり承認された。
3. 令和3年度 第1回「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療」WG  
議事要旨(2月17日)  
銘苺委員より、資料3に基づき、説明があり承認された。
4. 「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療」WG 委員一覧  
銘苺委員より、資料4に基づき説明された。委員追加案についても確認があった。
5. 妊孕性温存療法研修会の開催報告  
銘苺委員より、資料5に基づき各医療機関での出張研修会の状況について説明があった。今後の予定としては、浦添総合病院で7月に開催予定、他は南部医療センター・こども医療センターへ依頼中とのことだった。

6. 妊孕性温存療法のポスター作製について

銘苅委員より、資料 6 に基づき報告があった。各施設にポスターが送付されていることが説明され、患者への情報提供が依頼された。

7. 「妊孕性温存療法」に対する医療補助について

資料 7 に基づき、外間委員より令和 3～4 年度現在の申請状況について報告があった。外間委員より、予算確保のため、琉大と友愛医療センターには、実際に温存療法を行った件数を確認したいとの依頼があり、琉大に関しては、銘苅委員より、県と(産婦人科)担当者として直接確認を取り合ってもらっているとの、回答があった。

8. 令和 4 年度第 1 回 小児がん相談支援マニュアル WG 議事要旨【案】(5 月 27 日)

増田委員より、資料 8 に基づき報告があった。議事要旨では、今後の改訂の進め方について話し合われたようだが、各施設での使用状況などの報告があり、当該マニュアルの必要性について改めて審議する必要が出てきた為、WG 委員へ意見収集するとの報告だった。

9. 小児がん相談支援マニュアル WG 委員一覧

増田委員より資料 9 に基づき報告された。

【協議事項】

1. 今年度の部会長・副部会長の選出及び部会委員の追加について

部会長には浜田委員が選出され、副部会長は、森島委員と銘苅委員が留任ということが承認された。

2. ロジックモデルと今年度の部会活動計画について

当日資料に基づき、今年度の活動計画について増田委員より提案があり、ロジックモデルの個別施策の中から主に教育分野に絞って、意見が求められた。今回頂いた意見を元に、病院側から学校に対してどうして欲しいのか、どのように連携を取り合うのかについて、次回以降協議する。メールでの意見も随時受け付ける。以下、各委員からの情報提供や意見等。

- ・学校でのがん教育についてはフォローアップしていけそうである。県立高校では今年度より、学習指導要領の中で義務化されており、どの学校でもがん教育についての授業が進められていく予定である。(城間委員)
- ・AYA 世代のがん治療等、長期にわたり入院している児童生徒へのフォローに関してはまだ課題があり、病院や県の教育機関等が連携しながら問題共有し、フォローアップしていくことが中長期的に必要なのではないかと認識している。保護者や児童生徒からフォローを求められた場合は個々に対応しているが、県特別支援学校全体で、医療機関と連携した体制作りができれば理想的である。現状では、義務教育段階の児童生徒や県内の高等学校に在籍中の生徒へは県教育委員会(教育行政)と各学校の連携で支援も進められるが、未就学の AYA 世代の方々への学習支援等のフォローアップについては、もっと広く県や市町村の福祉行政の力が必要だと考えられます。(新屋敷委員)

- ・メンタル専門の先生や県のスクールカウンセラーによる、在學生や保護者の不安感や相談へのサポートもある。個人情報であるので児童生徒本人や保護者の了解を得た上で、治療に活かされるのであれば、病院側との連携も考えられると思う。(新屋敷委員)
- ・(設置義務があるわけではないが)卒業生の会がどの学校にもあり、卒業後も保護者の交流はある。(崎間委員 代理 赤嶺さん)
- ・(赤嶺さんの発言に対して補足)卒業生の保護者が中心となり各特別支援学校単位で、成人式やスポーツ行事等で交流する「青年教室」が定着している。(新屋敷委員)

○がん教育に関する質疑応答が以下のようにあった。

【金城委員より質問】がん患者は治療後に学校に戻ってから、容姿のことでいじめにあったりする場合がある。がん教育の中には小児がんのそういう問題に関して触れる枠も設けられているか。

【城間委員より回答】小児に関して多くの割合を取るということは難しいが、これまではがん教育に特化した教育内容は設けられていなかったもので、がんに関して知ることが出来る機会を得られることは一歩前進と考えられる。また、偏見等に関連する人権教育にも触れながら進めていくところもとても大事なポイントになっている。

【増田委員より補足】がんになる原因や予防、健診、治療方法を伝えると時間いっぱいになってしまうが、がん患者が周りに結構いること、偏見をもたないようにしましょうという話は伝えられる。もう一コマ設けて、患者と保健体育の先生とで授業を行う学校もあり、そういう場合は、もう少し踏み込んだ内容で伝えることができ、生徒たちの理解も良いようだ。

### 3. 小児がん長期フォローアップ外来について

増田委員より、各施設の小児がん長期フォローアップの状況について確認があり、各委員より下記の通り、提案や意見等があった。次回以降も継続して審議を行う。

○資料 11 に示されたように、第 2、第 4 週の金曜に長期フォローアップ外来が設置されている。

- ・大人になった患者さんの人間ドックについては腫瘍内科医が担うのがよいのではないかと。生育医療センターの長期フォローアップをロールモデルにもできるのではないかと。(浜田委員)
- ・造血細胞移植の場合、手帳やマニュアルを充実させて地域連携へつないでいく流れになっている。高度医療が必要な場合を除いて、二次がん検診や、就労、精神的分野等の対応は地域で診ていく方がよいのではないかと。(森島委員)
- ・琉大内では、晩期フォローアップも妊孕性温存に関しても、小児科・産婦人科・整形はかなり密に連携できている。(當銘委員)
- ・急性期についてはうまくいっている。女性ホルモン補充療法の場合等、必ずしも琉大でなくクリニックでもよいケースもあるのではないかと。(銘苺委員)
- ・成人科へ何年かかけて移行していくシステムづくりは必要ではないかと。(當山委員)
- ・子供のころから診てもらっている医師から離れて地域の開業医に移るときの不安感に対して、いきなり移行するのではなく、小児科のフォローを段階的に減らして引き継いでいくのはどうか。(大城委員)
- ・自身の経験上、また周囲の保護者から相談を受けていても、各市町村に散らばるよりは、各

専門医のいる南部医センター・こども医療センターと琉大の2か所で長期フォローアップを行うことが望ましいと考える。(金城委員)

6. 次回開催日程について

8月頃を予定とし、事務局より候補日を挙げて、メールでアンケートを行い決定することとなった。